
怪盗キッドと櫻井香凜の出会い

たけま

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

怪盗キッドと櫻井香凜の出会い

【Zコード】

Z8400D

【作者名】

たけま

【あらすじ】

香凜が何故探偵になつたかと香凜のもうひとつ顔を書きました。これをお読み頂く場合初めての出会いをお読み下さい。そして、感想やアドバイスを御待ちして居ます。

(讀書会)

初めての出版これを読みトドケ。

まず、何故私が探偵をするよになつたかを、お話ししましょう。

ある日私の母親がある組織の殺人現場を目撃から殺されてしまった。その、組織は、黒ずくめと言う事とパンandlerと言つ宝石を狙つてゐる事、それから、何故私の体が伸び縮みするよになつたかと言うのは、その組織にある薬を飲ませたから（アポトシキン4869ではない）もうひとつ私には顔があるそれは、怪盗快音キッドと肩を並べる大怪盗今やあのキッドキラーと言われる名探偵江戸川コナンしか捕まえることだが出来ないと言われている。次に家族紹介と行きましょう。

父親は、あの、千葉県警本部長櫻井紫稜母親は、その紫稜の専属の部下櫻井哀緒璃である。

ちなみに私の体が伸び縮みする事は父親は知る訳がない、では、本編に、あの日は、父から、キッドの予告状を奪いとつたあとに小さくなつてしまつた。予告状を解いた私は、今杯戸シティーホテルの屋上にいる、ああー早く着過ぎたかなあ、、、、と思つていると、ある少年がやつて來た、その少年はびっくりしたようにこっちにきた、「き、君は？」ああー普通はそれよね、

「自分が名乗るのが普通だと思うけど…？」

「ああ、そうだな、おれは江戸川コナン探偵さ」へえー面白い

「私は…」や、やばい名前どうしよう…

「私は海原七海貴方と同じ探偵よ…」

「と、言つ事は君もキッドの予告状を解いたの？」と聞いてくる、

「ええ、探偵だし、意外に簡単だつたし。」

「もう少しだ、」とコナン君が言う次の瞬間、夜の静寂を壊さぬよう、元に、私達の目の前に降り立つた、何もかも見透かしたような不敵な笑みを混めて、

「おめえら何やつてんだ？こんな所で…」コナン君が花火に火をつ

けて放つた、

「花火！！」なんて可愛い答え

「どうしたの？逃げないの？怪盗キッドさん？」すると、キッドは無線を取り出し

「あーこちら茶木だキッドは、杯戸シティーホテルの屋上だ」とか「こちら中森わしだキッドは屋上だやつを取り押さえろ」コナン君は自慢のポーカーフェイスボロボロだよ？私は怪盗快音の時に使つのでそこまで、驚かない。「き、君は？」あー普通はそれよね、「自分が名乗るのが普通だと思うけど……？」

「ああ、そうだな、おれは江戸川コナン探偵さ」へえー面白い

「私は……」や、やばい名前どうしよう…

「私は海原七海貴方と同じ探偵よ…」

「と、言う事は君もキッドの予告状を解いたの？」と聞いてくる、「ええ、探偵だし、意外に簡単だつたし。」

「もう少しだ、」とコナン君が言う次の瞬間、夜の静寂を壊さぬよう、私達の目の前に降り立つた、何もかも見透かしたような不敵な笑みを混めて、

「おめえら何やつてんだ？こんな所で…」コナン君が花火に火をつけて放つた、

「花火！！」なんて可愛い答え

「どうしたの？逃げないの？怪盗キッドさん？」すると、キッドは「オメエラただのガキじやねえな…」

「江戸川コナン探偵わ」

「海原七海探偵よ」

「ホー」とキッドは無線を取り出し

「あーこちら茶木だキッドは、杯戸シティーホテルの屋上だ」とか

「こちら中森わしだキッドは屋上だやつを取り押さえろ」コナン君は自慢のポーカーフェイスボロボロだよ？私は怪盗快音の時に使うのでそこまで、驚かない。すると中森警部が登場

「これは、これは、中森警部お早いお着きで」とキッドが言つ予告

状を解いたんだって、するとキッドは

「今日は貴方方の出方を見るための下見きちんと書いたはずですよ
エープリールホール（うそ）とね……」そしてハングライダーを出し
閃光弾を投げこいつ言った

「よお、テメエラ知つてか怪盗は創造的に獲物を盗み出す芸術家だ
が探偵はその後見て難癖つけるただの評論家にしか過ぎ無いんだぜ
……？」閃光が消えた時キッドは消えていた、へえー警官に化けたの
バレバレだよ？でもそこにいる探偵君のためにも言わないであげる、
セリザベス号横浜から東京間での間の3時間その間にキッドはブラン
クスターを盗むらしいよ。あれこれ、あって（詳しく知りたい人は原作又は初めての出会いをお読み下さい）、キッドを追い詰めた
がとりにがした。事件から3日後私は怪盗快音としてあるビルの屋
上に何んし、きちんと予告状を送ったよ。但し怪盗としか書いて無い
けど

「ヘリが1、2、3、4、…5台か…キッドと勘違いしてると絶対
…ハハ…」

「今日の狙いはサファイア」といいハングライダーで飛び出した、
「来たぞ怪盗キッドだやつを取り押さえろ」や、やつぱりまあ、私もキッドと同じ格好してるし…このままサプライズで声を変えて宝石を盗んだあとに自己紹介するか…

「無駄ですよ、中森警部サファイアはもう既に私の手の中に…」
「いつの間に」

「あれ気付いてませんでした？貴方の部下の姿を貸して貰つたんですけど…そんなんじや私は捕まえる事は出来ませんよ…」

「う…うるさいやつを捕まえるー」

「それに私は怪盗キッドでは無く怪盗快音ですよ。」

「な、なんだと…！」

「では、また今度会いましょう。」

(後書き)

感想やアドバイスを御待ちして居ます。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとっています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n8400d/>

怪盗キッドと櫻井香凜の出会い

2010年10月8日15時22分発行